日蓮大聖人御書全集

兵衛志殿御返事（ひょうえのさかんどのごへんじ）

（兄弟同心の事）（きょうだいどうしんのこと）

新版 1503

兵衛志殿御返事（兄弟同心の事）

弘安3年（'80）11月12日　59歳　池上宗長

我が法華経も本迹和合して利益を無量にあらわす。各々二人、またかくのごとし。二人同心して大御所・守殿・法華堂・八幡等、つくりまいらせ給うならば、これは法華経の御利生とおもわせ給わざるべき。二人一同の儀は、車の二つのわのごとし、鳥の二つの羽のごとし。たとい妻子等の中のたがわせ給うとも、二人の御中、不和なるべからず。恐れ候えども、日蓮をたいとしとおもいあわせ給え。もし中

不和にならせ給うならば、二人の冥加いかんがあるべかるらめと思しめせ。あなかしこ、あなかしこ。各々みわきかたきもたせ給いたる人々なり。内より論出で来らば、鷸蚌の相扼ぐも漁夫のおそれ有るべし。南無妙法蓮華経と御唱え、つつしむべし、つつしむべし。恐々謹言。

十一月十二日　日蓮　花押

ひょうえの志殿御返事